

“争うよりも愛したい”

「沖縄を再び戦さ場にさせない全県民の思い」

米国の対中国包囲網戦略に乗った日本の安全保障戦略が 2022 年 12/16 “安保 3 文書” として出され、戦後の安全保障政策の大転換がなされました。そして 2023 年 1/23~6/21 の通常国会では安保 3 文書の具体化としての「軍拡予算 6 兆 8000 億円」「防衛力財源確保法」「武器輸出全面解禁&軍需産業支援法」が成立し、土地規制法に基づく「注視区域」も追加指定されました。



“集团的自衛権行使+敵基地攻撃+防衛費 GDP2%(11 兆円)・5 年で 43 兆円”の国家戦略に基づき”沖縄・南西諸島でミサイル基地が、弾薬庫が作られている。

“つくられた有事=虚構の台湾有事”へ対応する「日米共同作戦計画」で具体的に軍事訓練が実施されている沖縄の状況に呻吟し闘っている沖縄からの訴えを聞き「新たな戦前にさせない」方向性を掲げていこうとシンポジウムが開かれました(2023 年 10 月 17 日)。

山城博治さんは語りました。

辺野古新基地建設への玉城沖縄知事の承認に対する、地方自治法を捻じ曲げてまでも“防衛省が私人”となつての行政不服審査の手段を使う国。最高裁判所は大浦湾の軟弱地盤の調査もせずただ政府が正しいと判断しての不当判決。国は 10/5 代執行提訴と問題だらけの司法と行政を批判。



又、「中国脅威論」「台湾有事」を煽つての 43 兆円の防衛費・GDP2%11 兆円では毎年 5 兆円の民生費がカットされる。「バイデン大統領に貢ぐ政治は許せない」と。

バイデン・岸田が「何故中国が攻めてくるのか?」「いつ中国は攻めてくるといったのか?」といった問いにはまったく答えることなくただただ“煽る”。

恐怖を煽つての安保 3 文書はまさに「対中国戦争のシナリオ」でしかないと厳しく批判しました。

そのため、「沖縄の港湾・空港の拡充とシェルター建設」を自治体首長からのインフラ整備の要請と言う形で語らせるが、その内実は米軍・自衛隊日米両軍の共同使用のために滑走路を 2000m から 2500m(戦闘機が使える)に、軍艦が入れるように港湾も拡充しているのです。

更にシェルター建設や避難訓練で“戦時へのマインド”へと誘導されている状況に対し山城さんは強く訴えます。「何故戦争になるの?」といった最も重要ななことを冷静に真剣に考えるときなのに・・・作られた有事に乗ってはいけません!つくられようとしている戦争に乗ってはいけません!と。

沖縄で展開されようとしている「日米共同作戦計画」の具体的訓練などからその内容を語り米日政府の政策を厳しく批判しました。

先の戦いの沖縄戦で沖縄の人々は「軍隊は住民を守らない」ことを骨身にしみて知っている。米軍は“嘉手納基地はあまりにも脆弱なので”54 機の F15 戦闘機をグアムに全面撤退させ、海兵隊員も 4000 名撤退させることを決めている。米軍の穴埋めが自衛隊なのです。

沖縄(南西諸島)の 40 の島から米軍の 2800 名の海兵沿岸連隊がハイマースで中国艦を撃っては

逃げる。島を守るのは自衛隊と住民(反撃をもろに受ける)。これで中国と1年ぐらいの持久戦をたたくというのが米国の戦略。先の沖縄戦よりひどい状況が生み出されるのは必死。

200万人の中国軍と2800人の米海兵隊では戦いにならない。自衛隊がはいって徹底的に戦って死ぬのは自衛隊員と住民(逃げるのは米軍)。何故こんな屈辱的な戦争に外務省や防衛省は前のめりになるのか?

しかもこの戦略には南西諸島だけではなく九州全土(佐賀空港・筑城基地・新田原基地・馬毛島)も入っているのです。日本中が戦場化するのだ。…何なんだ!「バイデンくたばれ」と抗議をしながら語りました。

ではどうやって止めるのか?戦争がこないようにするには“全県民の団結”をもって「戦争するな」と堂々と主張していくことが必要と。

“オール沖縄”の辺野古の闘いと、戦争反対・南西諸島の要塞化反対の“県民の会”が一緒になって「再び戦さ場にさせない」と住民の声を上げていく。

県民集会に向け若い人々の思い「争うよりも愛したい」をスローガンにして、“ミサイルよりもおにぎりを”“争うよりも愛しなさい”などとたくさんの小さな魚が声を上げながら集まって“スーミーバイ”(10m×5m)を作り、巨大な魚に対し闘っていくといった運動の方向性が示されました。

宮古島の市議会議員下地茜さんは宮古島保良につくられる(自宅から100歩)弾薬庫反対の運動を展開。ジュネーブ条約第一追加議定書の「軍民分離の原則」から市議会などで問題点を指摘。「島からミサイル撃って移動するEABO・遠征前方基地展開作戦は民間人を巻き込むのでは?」「石垣・宮古空港を軍事利用すれば民間との分離は出来ないでは」と。

瀬瀬さんは「抑止論」「同盟論」の神話性・虚構性を、“NATOの抑止力で対抗したウクライナの抑止論がロシアの侵攻で破綻した現実”を示して語りました。

リムピースの星野さんからは横浜港ノースドックに米軍揚陸艇が配備されようとしていることへの反対運動の状況が語られました。

日本中が「戦争する国」としての戦時体制が作られつつあります。

ひとりでも声を上げ小さなミーバイがたくさん集まり“スーミーバイ”になり、大きな凶暴な魚に打ち勝ち平和で自由な社会にしていきたいと思います。



*10/19は新宿駅前での街頭演説会が行われ、山城博治さん辛淑玉さん福島みずほさん佐高信さんが「戦さ場にするな!」と熱く訴えました。

「民主主義と自治そして平和主義」藤代政夫 445-9144

*活動報告HPで「いい鎌ヶ谷ふじしろ政夫」でアクセスできます。

